



輪投げの一投に注目する選手たち

6月27日、ほっとランド・きぬの多目的広場・芝生広場で、下妻市老人クラブ連合会主催の「ねりんスポーツ下妻大会2013」が開催されました。

競技種目は、「グラウンドゴルフ」「輪投げ」「ゲートボール」の3種目で、市内老人クラブの会員213名が参加し、仲間たちとのスポーツを楽しみながら日頃の練習の成果を発揮しました。

輪投げの競技に参加した富岡恒夫さん（中居指）は「5年前から輪投げをはじめた。練習は3月頃から近くの神社の掃除で集まった時に行っている。毎年大会に出場して、とても楽しくやっています」と健康の秘訣を話してくれました。

みんな活き活き、スポーツで元気にねりんスポーツ下妻大会2013



ゆでたて、焼きたてのトウモロコシを食べる子どもたち

5月に種まきしたトウモロコシが順調に育ち、収穫を迎えた7月28日、わらべうた・あそびランドが神明集落センターで「トウモロコシを食べよう会」を開催し、市内親子や関係者約150名が参加しました。

この会は、トウモロコシを種まきから収穫までを体験することにより、自然とのふれあいを通して豊かな感性を育み、親子のスキンシップを図ろうとするもので、平成5年から行われています。収穫作業では、親子が声を掛け合い、大汗を流しながら収穫し、集められたトウモロコシは軽トラックの荷台をいっぱいにしていました。

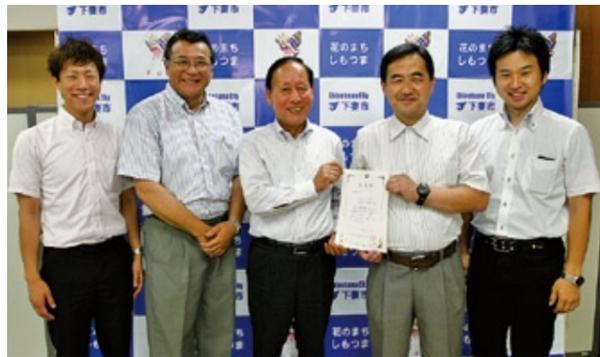
今回初めてお父さんと参加した小菅汐梨ちゃん（4歳）は「上手にいっぱいおとれた。とってもおいしい」と満面の笑みで話してくれました。

トウモロコシを食べよう会

栗山商店街を今一度元気にしようと、茨城県が公募する「商店街コンペ事業」に挑戦し、見事「優秀プラン」に採択された「しもつま生活向上夢工場実行委員会」が7月10日、稲葉市長に受賞と今後の取り組みを報告しました。

「くりやま『コミ×コミ』プロジェクト～誰もが事業主！ワークショップ～」と題した採択事業は「栗山商店街をいつ来ても楽しい」と思ってもらえる空間を創造しようと、商店会・地元住民・学生・関東鉄道を巻き込み、ワークショップや下妻駅前のイルミネーション、空き店舗活用など多彩なプロジェクトを展開する計画で、コミュニケーションを重視したまちの実現を目指します。中久喜正会長は「今回のコンペでは、地域の若者や筑波大生の協力を得て斬新な計画ができた。地域の方々と共にまちを活性化したい」と意気込みを語りました。

栗山商店街を活性化  
しもつま生活向上夢工場実行委員会



受賞を稲葉市長に報告したメンバーたち

7月5日、東京都及びその近郊に在住・在勤する茨城県出身者で組織される「茨城県人会連合会」の総会・懇親会が都内ホテルで開催され、各界で活躍する関係者約500人が参加しました。

下妻市の出展コーナーでは、ビアスパークしもつまの地ビールをはじめ、梨のリキュールやウイマムの飲むヨーグルト、手作りウイナー、下妻産のきゅうりやトマト等の特産品を提供し、砂沼サンビーチなどの観光情報と合わせて盛大にPRしました。

好評の梨のリキュールを試飲した女性は「ほどよい甘さで、とても美味しい。飲みくちがいいので、たくさん飲んでしまいそう」と話していました。

都内で下妻市の特産品や観光をPR  
茨城県人会連合会



下妻の美味しい特産品をPRしました



威勢のよい掛け声で盛り上がる神輿渡御

高道祖原自治会では、平成25年度の宝くじの助成を受けて、夜間のイベントに使用する投光機3基を購入し、7月20日の夏祭りで活用しました。

夕方から行われた大人神輿で、バルーン型の投光機が会場全体を明るく照らすと、「祭りがより華やかになり、神輿も一段と引き立って見える」「神輿が練り歩く道路も明るく照らされ、安全性が高まった」などと地域住民から喜びの声が聞けました。

この助成は、宝くじの社会貢献広報事業としてコミュニティ活動に必要な備品等を整備するために行われるもので、高道祖原自治会ではこれまで以上に夏祭りを盛り上げ、地域全体の活性化につなげています。

宝くじ助成事業でコミュニティ活動を推進  
高道祖原自治会



投光機の明かりで、祭りがより華やかに



## 勇壮な神輿と山車の競演

第16回ふるさとまつり連合渡御

市内の神輿8基と山車6基が一堂に会して沿道を練り歩く「ふるさとまつり連合渡御」が7月27日、千代川庁舎周辺をメイン会場に開催され、担ぎ手を含む約2,000人が集まりました。

小雨がちらつく中で始まった渡御では、囃子の音色と威勢のよい担ぎ手の掛け声が飛び交い、開始から30分程度で激しい雨にみまわれましたが、会場は大いに盛り上がりを見せました。



水防工法「月の輪」を実践する団員たち

風水害に備えて水防工法を学ぶ  
第54回鬼怒・小貝水防連合体水防訓練

7月7日、第54回鬼怒・小貝水防連合体水防訓練が、下妻市別府地先の鬼怒川右岸（大形橋下流）の河川敷で行われ、当市のほか、つくば市、常総市、つくばみらい市及び八千代町の消防関係者約200人が参加しました。

大型で強い台風の集中豪雨による水害を想定した訓練では、団員20名が本番さながらに「土のう作り」や「月の輪」の作製など伝統的な水防工法を体験しました。

参加した団員で第1中隊長の飯島保さんからは「これから台風シーズンに入るなか、日常の訓練をしっかりと行って、地域の人たちに安心してもらえるよう努めていきたい」と力強い言葉が聞けました。